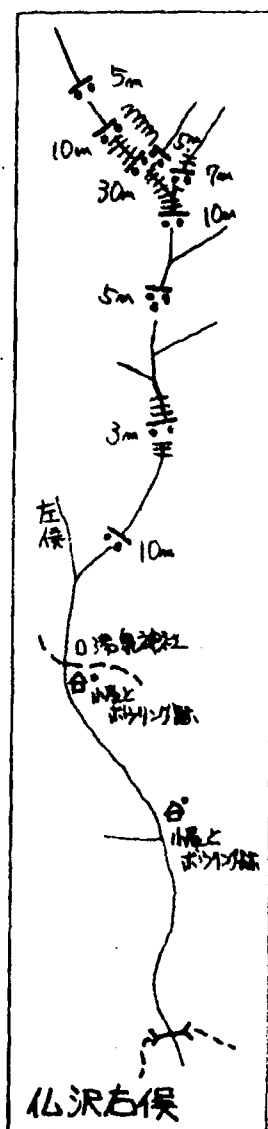


安達太良山・仏沢右俣

1983年6月25日

I



きれいなナメ滝があるという情報はあったのだが、我が会ではまだ遡行していなかった仏沢右俣を目指す。左俣は2年前の半沢パーティが登っているのだが、平凡そのものであったようだ。今回の山行も二俣までは全く平凡。その先に期待をかけての遡行である。

8:30遡行開始。水はまだ冷たい。予想通り(?)二俣までは全く平凡である。約1時間。ひたすら歩くのみである。途中2ヶ所に小屋跡とボーリング跡を見た。

9:30いよいよ右俣に入る。すぐに10m階段状の滝が出てきた。ホールド多く、右岸を簡単に直登する。この先またしばらく平凡となる。

F2 5mのどまん中をシャワーで直登してぬけ少し進むと、噂に聞いていた大きなナメ状の滝が姿を現わす。左岸から入る2本の支沢をはじめ、上から下まで全て傾斜をもった斜瀑である。落差が大きいのので迫力充分。思わずカメラを出してシャッターを切る。でも登るにはそれほどの苦勞はいらない。手頃な傾斜なので、フリクションをきかせればそれほど苦勞なく登れる。

11:05沢は再び平坦に近くなった。この先は藪の中に入りこむだけである。もうこれ以上進むこともあるまいと、遡行を打ち切って下山する。(記・I)

[タイム] 仏沢出合(8:30)→二俣(9:30)→遡行終了(11:05)

安達太良山・硫黄川

1983年9月23日

L